

2022.3.20

ご報告：3/19 第 31 回働学研オンライン研究会

十名 直喜

3/19 第 31 回働学研が、国際文化政策研究教育学会および一般社団法人 文化政策・まちづくり大学校（市民大学院）との共催で、春季研究交流集会（3/19-20）の一環として開催されました。

開始に先立ち、12 時 50 分より開会式が行われ、中谷武雄会長（国際文化政策研究教育学会）および金井萬造理事長（市民大学院）より、開会あいさつがなされました。

月例会（オンライン）は、開始時間をいつもより 1 時間早め、13 時開始となりました。

ご参加いただきました方々（下記 35 名）には、心よりお礼申し上げます。

（敬称略：麻島、安藤、池上、池田、井手、岩田、太田、小野、片山、金井、岸本、木林、小林、小宮、桜井、澤、白石、杉山、高橋、高松、田中、程、戸崎、冨澤、中谷、中野健一、西端、濱、平松、藤岡純、堀、村瀬、守友、横田、十名）

第 31 回働学研は、「創造的な学びと経営のダイナミズム」をテーマにして、下記の 3 部編成で、11 本の発表&議論が、4 時間以上（13:00～17:15）にわたって行われました。

「第 1 部 勤勉・勤労と創造的学び」（司会：太田）は、3 本の発表・議論。

「第 2 部 企業・地域・社会の経営と文化」（司会：冨澤）は、4 本の発表・議論。

「第 3 部 『サステナビリティの経営哲学』書評会」（司会：濱）は、書評 3 本とリプライ 1 本。

なお、第 3 部の聴涛さんのご発表は、急病で叶わなくなり、発表資料に沿って代役（十名）で急きょ対処しました。

盛りだくさんの発表で、発表&議論の時間には限りもあるなか、運営にご配慮・ご協力いただきました。おかげさまで、極めて濃縮した発表&議論がなされたと感じています。

3/19 第 31 回働学研プログラム

テーマ 創造的な学びと経営のダイナミズム

（司会：太田・冨澤・濱、画面：澤 & 発表 15 分・議論 10 分：計 25 分/本）

第 1 部 勤勉・勤労と創造的学び（司会：太田 13:00～14:15）

堀 隆一：「二宮尊徳の勤勉・勤労思想」

十名直喜：「学びあい育ちあいの理論と政策 一働学研の創造的発展への視座」

高松平蔵・平松民平：「言論環境の変化に伴う意味と影響」

第2部 企業・地域・社会の経営と文化（司会：富澤 14:15～16:00）

中野健一：「企業経営学から地域経営学への発展 ―日本経営学の基本的特質」

片山勝己：「ICTが促す工具調達システムの変容と課題 ―大規模製造業を中心に」

杉山友城：「文化創造の条件に関する一考察 ―若州窯の事例を参考に」

小野 満：「重層消費社会と中小企業」

第3部 書評会：十名直喜『サステナビリティの経営哲学』（司会：濱 16:00～17:00）

澤 稜介：『国際文化政策』15分

聴涛 洋：『経済科学通信』10分

中谷武雄：『季刊 経済理論』（企画）10分

十名直喜：書評へのリプライ10分、全体討議15分

なお、11本の発表&議論については、そのポイントを下記（4行/本×11本）にまとめています。

また、終了後、1日足らずの間に、多くのメールが届いています。そのうち、内容に関わる下記7本の感想・コメントを、<付記>で紹介しています。

次回の4/23第32回働学研には、3人（大松、堀、井手）から発表の申し込みをいただいています。発表のご希望は、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。お待ちしております。

十名 直喜

発表&議論のポイント

<第1部>

堀さんの発表は、二宮尊徳の勤労・勤勉思想について、生涯を概観しつつ、至誠、勤労、推譲、分度を軸とする思想と仕法の核心と特徴を考察されたものです。日本の経営者や思想家への影響、米国、中国からの注目。1世紀を隔てた石田梅岩と二宮尊徳の思想と政策さらに半世紀後の渋沢栄一にみる共通性と相違性、歴史的背景等も議論に。

十名の発表は、2年半の働学研にスポットをあてつつ、学びあい育ちあいの理論と政策を、働学研の半世紀の視点から考察したものです。その活力源は何かとの問いが出され、感謝・報恩&未来へのリレーの視点が提示された。社会人博士2人からゼミでの学びと自立後の生きざま、抱負が語られ、生産現場38年間からの問い直し等、検証と深化がなされました。

高松さん・平松さんの共同発表は、ICTが促す言論環境の変化をどう捉えそれに向き合うかについて、2か月前の高松発表を深めたものです。ICTが生み出す新たなつながりと創造性、ITなど巨大資本による支配と変容。21世紀読書クラブとしての働学研。複製労働と型の変容のなか、複製と創造の関係にみる変化、思考の熟成との関係などの議論も。

<第2部>

中野さんの発表は、現代主流の欧米経営学や日本の経営学に対峙して、伝統をふまえた

独自の日本経営学、営利・非営利を総合化した地域経営論を提示されたものです。論文指導（池上）、出版支援（中谷）での自費出版。本の書評と博士論文への洗練化の助言（十名）。壮大な構想の意義、それをどう具現化していくかをめぐって議論がなされました。

片山さんの発表は、工具論文の洗練化について、タイトル「ICT が促す工具調達システムの変容と課題」への見直し、研究思索のプロセスを詳細に提示されたものです。機械や道具は使い切る中で改善への道も。直販が切り拓く顧客と生産者の関係。そのプロセスは中小企業の経営にも通ず、との指摘も。思索の熟成を論文に生かす等が議論されました。

杉山さんの発表は、創業 2 年の福井県若州窯をスタートアップの企業事例として、工芸として取り上げ、地域の経営と文化の視点から考察されたものです。定点観測の継続、伝統的な陶磁器経営にみる衰退、継承・再生モデル、和紙などとの比較分析の必要性。日本工芸への注目、直販との結合。国際的に通用するデザインの視点なども指摘された。

小野さんの発表は、消費にみる多様性、新階層性、個性化などを「重層」として捉え、中小企業の視点から重層消費社会を分析されたものです。重層とは何か、層とは何か。重層を「多様な差異」として捉え直す。差異から学びあう、差異を生み出す背景へのメス。コロナ禍と ICT が促す物流変化等が指摘された。それに向き合う 90 歳の研究意欲に敬服。

<第 3 部 書評会>

澤さんの発表は、『サステナビリティの経営哲学』の全体像とポイントの紹介とともに、ICT の視点から幾つかの論点に切り込まれたものです。コロナ禍が促す仕事や生活の ICT 化を、理論的・歴史的にどう捉えるか。ICT と物質代謝の関係、ICT がもたらす光と影、機能・情報の過多と過少&支配、イノベーションと働学研の有機的關係等への指摘等。

中谷さんの発表は、ほぼ同時期に出版された本書と関係書 2 冊を比較し、共通性と独自性に注目されるとともに、コモンズ論にスポットをあて深掘りされたものです。公富と私富の関係、山田奨治[2021.7]の「文化コモンズ」と伝統的なコモンズ（入会地など）との違いに注目。文化コモンズの視点から働学研を評価。2つのコモンズをめぐる比較の議論も。

聴涛さんの発表は、急病で叶わなくなり、代役（十名）が発表資料に沿って急ぎょ行ったものです。生産力の発展は、地球環境破壊のもとで社会発展の原動力でなくなる。生産力の定義は過去・現在・未来においても変わらない。生産性を重視すべしとのこと。本書が示す生産力の本来的あり方への理解、環境文化革命および働学研への深い共鳴も。

十名のリプライは、3人の書評に対して行ったものです。いずれも、本書への深い理解に基づいて提示されており、感謝&参考にしたい。献本などに対する百数十通の感想・コメントも紹介。経営の定義、現代経営哲学の樹立、自己実現&他者実現、仕事&研究のあり方、スミス&マルクス&渋沢栄一の比較視点、新しい資本主義と労使関係など多様な示唆。

<付記 3/19 月例会への感想>

なお、3/19 働学研の終了直後、1 日足らずの間に、多くのメールが届いています。そのうち、内容に関わる下記 7 本の感想・コメントを、<付記>で紹介させていただきます。

2022.3.19 濱 真理（司会）

「十名先生の1冊のご著書から、これほどいろいろな感想・意見が出されるとは驚きです。本の内容にそれらの源が宿っていることになります。

池上先生がおっしゃられたように、そのような深い書作は、完全な評価を享受するまでに時間を経る必要があるでは…」

2022.3.19 太田信義 (司会)

「本日は長時間にわたりご苦労様でした。また十名先生には挨拶、発表、質問と多くの役割ありがとうございます。」

2022.3.19 高松平蔵 (発表)

「本日はありがとうございました。高松平蔵です。

平松さんとのやり取りは、とても刺激的でした。特に、モデル化は平松さんならではのものですすがすね。発表は持ち時間の短さへの挑戦ではありましたが、取りこぼしたのもたくさんあり、失礼しました。

それから、先日いただいたメールの「自国民が自国の行動をコントロールするしかない」という一言、同感です。民主主義国家の主人公は個人です。そして話し合いによって、「多様性と結束」という一見矛盾する課題を実現する制度でもあり、同時に「多様性と結束」があることで民主主義の質が高まる関係にあると理解しています。

そのため性質的にいえば、民主主義の国同士は戦争には至りにくいといえます。それだけにウクライナ戦争には西側(=デモクラシークラブ) vs プーチン(=非デモクラシー/独裁者)という構図が描けます。

そして「外交としての戦争」があり、「経済」「資源」などクラシックな要素に加えて、サイバースペースという「新しい戦場」が加わりました。

サイバースペースが攻撃のためだけでなく、言論空間として機能すべきという理想がいよいよ大切だと思います。

十名先生、働学研という場を用意いただき、そこへ参加させていただき、平松さんとのやりとりを促していただいた。

また、本日の発表を見ると、私と平松さんの発表のみならず、十名先生の本をベースにしたやりとりが展開されました。これは「21世紀型読書クラブ」、本日の議論でいえば「文化コモンズ」におけるダイナミズムだと実感しております。

また、論文のほうは途絶えないようにするため、定期的に時間を作り、粛々と進めています。

月曜日は愛知県立大学で講演と同大学准教授との対談があります。

▼文化実践から市民性を考える 「人と人を繋ぐ芸術とスポーツの社会性 ～文化・コミュニティ・民主主義～」 <https://www.interlocal.org/vita/koen/>

仕事を通じて、思考を深めることができるのはとても幸せなことです。こういうことも論文にフィードバックさせていきたいところです。引き続きご指導よろしく願いいたします。」

2022.3.19 平松民平 (発表)

「ホントウにお世話になりました。私も取りこぼしというか、うまく話せなかったこと

が沢山ありましたが、でも、やれてよかった、が実感です。

また、高松さんの論とうまくかみ合った話が出来ていないところがありましたが、ご容赦ください。

多様性と結束、確かに相反するものですね。多様な意見、個人の自由を保証しつつ、何か事を為す時は結束してベクトルを同じ方向に向けることが必要、ですね。

論語の「君子和して同ぜず、小人同じて和せず」

同ぜず、差異を保ったまま、差異を発展の源泉として、差異のダイナミックな調和こそが重要、これが2500年前の言葉とは！

十名本の感想を書きかけたままになっています。再開しようかなと思っています。

本日の関連報告を聞いて、その気になりつつあります。「地球自然の有限性」に対応して「人間個の有限性」があるように思いました。

前者は物質代謝の世界、後者は情報（非物質世界）の世界でありうるのでは…では」

2022.3.19 池上 惇（発言）

「今日、14時からオンラインで参加できました。非常に高い水準の内容で、心より敬意を表しております。

また、横田さんの本が社会評論社からご出版、決定の由。慶祝。感謝。

これだけのことを準備しようと思うと、ご自身が蓄積されてきた「ご経験による文化資本」があつてのことで、その上、大変な「ノウハウ・コスト・エネルギー」が必要ではないかと思えます。健康を害しては継続できませんので、くれぐれも、自己抑制され、我慢すべきことは我慢されますよう願っております。とりわけ、オンラインは、神経の集中度がほかの仕事とは全く違うので、疲労度も格段に大きく。どうか、一層、ご自愛を。」

2022.3.21 中野健一（発表）

「この度は、発表の貴重な機会を与えて下さりありがとうございました。議論の場で発表するのは初めての経験でどのように振る舞えば良いか困惑の中で、十名先生がお声掛けを頂き、自然に場に馴染むようにお導きを頂き気持ちが救われました。毎回ですが、先生のさり気ない御言葉やお導きから温かさを感じ、まるごと受け入れて包んで頂くような有難さを感じております。

十名先生の働学研についての発表を拝聴し、先生が現場の社会人から研究者へと轉身されていく歴史や動機の公人意識に胸が打たれました。

今回の発表では自分の未熟さに向き合うための良き機会となりました。先生にご指摘を頂きました経営学の系譜の整理に厚みがないという点も洗練化の課題として学習を深めていきたいと感じました。この度は、大変なご準備の中で、貴重な機会とご助言を頂きましたことに感謝申し上げます。先生もどうかお疲れでませぬように、ご自愛くださいませ。」

2022.3.20 富澤公子（司会）

「昨日は、お疲れさまでした。不十分な司会で申し訳ありませんでした。本日も、勉強させていただきます。よろしく願いいたします。

なお、昨日の進行に当たって、発表者のテーマに関連する資料を調べていました。時間の都合でご紹介できなかったのですが、もし、機会があれば、ご紹介頂ければと思います下記に書きます。私も、この機会に、新たな勉強をさせていただきました。

中野さんへ

テツオ・ナジタ著五十嵐暁郎監訳「相互扶助の経済：無尽講・報徳の民衆思想」みすず書房(2015)

田中輝純「日本的経営の諸問題」日本経営学会第51回大会(1977)

平野真「地域経営学のフレームワーク：経営学からの展開 福知山公立大学紀要(2018)

小野さんへ

中井徹「消費意識の新潮流に対する考察と中小企業への展開」兵庫県立大学紀要

消費者庁「第4期消費者基本計画」令和2年

*小野さんのは残念ながら、参考文献が古いですので、上記2冊は、参考になると思います。

杉山さんは、研究論文を読ませていただきました。

片山さんの分野はよくわかりません。失礼します。」